小川修人

つちふるや五重塔の黄昏るる

江ノ電の家並抜けて春の海

緩る緩ると初夏を旅する八高線

ノンちゃんの雲に乗りたし蟇

入谷より短冊付けてお中元

飛ばし読む推理小説涼新た

夕星や茶寮の庭に添水鳴る

短日や木曽の関所へ山迫る

冬構疎林の中の山家かな

巌頭に凍てつくしぶき海鳥

友にして師たる谿聲春隣　修人